



孫たちの運動会——今ではどの学校も安全優先になった  
 2015年秋、富士宮市、全日写連外記省吾さん撮影

## 組み体操 高さ低くても

事故の多くは仲間の肩に乗る「タワー」や、背中に乗って積み上げていく「ピラミット」と呼ばれる組み体操で発生している。

ツクにはねられ、小学4年生が死亡した。

子供たちが無事にたどり着いた学校内で最近目立つのは、体育の授業、運動会、部活などでの事故である。中でも、全国でだけが相次ぎ、規制する自治体も出てきたのが運動会などで行う「組み体操」である。

県教委によると、2015年度に

県内公立校の授業や運動会で発生した組み体操による事故は小学校で256件、中学校20件、高校13件で、計289件あった。けがの内訳は、挫傷・打撲104件、捻挫71件、骨折56件などだが、幸い死亡例などはなかった。

事態を重くみて、県教委は今年4月、組み体操に対する「安全の目安」を通知。「タワーは2段程度、ピラミットは3段程度」を目安とした。その結果、タワーやピラミットの高さはぐっと低くなり、実施する学校も大幅に減った。保護者には「少し物足りない」などの声もあるが、「安全優先」ということだろう。

深秋の風に、応援旗がはためく。かつては運動会の華だったタワーやピラミットの高さこそ低くなったが、我が子や孫たちを声援する保護者の熱心さは、少しも変わらない。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

一字一筆 静岡の今

通学中の子供が交通事故の犠牲になるケースが相次いでいる。10月も横浜市内で87歳の高齢者が運転する軽トラックが集団登校中の小学生の列に突っ込み、1年生の男児が死亡。愛知県一宮市では「ポケモンGO」を使いながら運転していた男のトラ